

### 第21回「シティ OL-AID」回収結果発表

# 全国のシティ読者のおかげで 37万351円が集まりました！

全国のシティリビングネットワークが、共同で行っているボランティア活動「シティ OL-AID」。2009年1月上旬～8月下旬に実施した第21回の回収では、37万351円が集まりました。

#### 「シティ OL-AID」の仕組み

オフィスで使用済みの切手やプリペイドカードを回収

財団法人ジョイセフへ送付

国連人口基金 (UNFPA) や国際家族計画連盟とも協力しながら、国際協力を行っているNGO (民間公益団体)。開発途上国の妊産婦と女性を守るため、母子健康・家族計画などの分野で国際協力を推進

ジョイセフのボランティアが整理

収集家が買い取り

ジョイセフの支援活動資金に

#### 次回の回収は1月21日(木)必着！

第22回「シティ OL-AID」の回収を実施します。これまでに集まった使用済みの切手、プリペイドカードを、シティ編集部へ郵送するか、直接持参してください。

※直接、編集部へ持ち込む場合は、できるだけ事前に日時を編集部へ電話連絡してください(会社は月～金曜の午前9時30分～午後7時の間をお願いします)

#### 回収物

使用済みの切手、プリペイドカード (社員食堂のカードや、ジムなどのロッカーカードは除く)

#### 回収するときのポイント

- 切手は消印も入るように切り取ってください
- 切手は、日本のものと外国のものを分けてください(プリペイドカードは一緒で可)

あて先 〒102-8515 千代田区紀尾井町3/23  
シティリビング編集部「シティ OL-AID」回収係

#### 参加オフィスも随時募集中

ちょっとした心がけでできるボランティア「シティ OL-AID」の参加オフィスを随時募集中。参加希望オフィスには、「シティ OL-AIDシール」を配布。オフィスで不用になった空き箱などに貼り、切手やプリペイドカードを集めてください。※参加の際は必ず会社の承諾を得てください

応募方法など詳細はシティウェブで

PC <http://event.citywave.com/olaid/>

ケータイ <http://mc.citywave.com/olaid/>

2次元コード対応のケータイはこちらから



問い合わせ シティ編集部 ☎03(6703)4420

### 第21回「シティ OL-AID」回収結果

使用済み切手	※買い取り額	日本切手1100円/kg、外国切手3000円/kg
日本切手	306.60kg	→ 33万7260円
外国切手	1.81kg	→ 5430円
<b>使用済みメータースタンプ</b>		
日本メータースタンプ	17.35kg	→ 1万410円
外国メータースタンプ	0.10kg	→ 100円
<b>使用済みカード</b>		
テレホンカード	8463枚	→ 7625円
テレホンカード以外のカード	3万1991枚	→ 9526円

**合計 37万351円**  
(2009年1月上旬～8月下旬回収分)

「シティOL-AID」は、全国のシティリビングネットワーク札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・京都・大阪・福岡が共同で行っているボランティア活動。オフィスで不用になった国内外の使用済み切手やカードを、アジア・アフリカ・中南米などの開発途上国で国際協力を行っている財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)に寄付し、

「シティOL-AID」は、全国のシティリビングネットワーク札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・京都・大阪・福岡が共同で行っているボランティア活動。オフィスで不用になった国内外の使用済み切手やカードを、アジア・アフリカ・中南米などの開発途上国で国際協力を行っている財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)に寄付し、

支援活動資金として役立ててもらっています。半年に一度回収を行っていて、2009年1月上旬～8月下旬に実施した第21回の回収では、合計37万351円が集まりました。協力してくれた全国のみなさん、本当にありがとうございます！次回の回収は2010年1月下旬に実施するので、協力をどうぞよろしくお願いします。

使用済み切手やカードを寄付私にもできる身近な国際貢献

### 私たちの協力が in ザンビア どんなことに役立ってるの？

「シティ OL-AID」の活動で集められたお金は、財団法人ジョイセフを通して、開発途上国の妊産婦と女性の支援に役立てられます。今回は、アフリカの南部にあるザンビアのマサイティ郡での支援活動を紹介します。

#### マサイティ郡での具体的な支援金の使い道

1000円で…安全に出産するための、妊婦1人分の「出産介助用キット(ゴム手袋、消毒液など)」を提供することができます

1万円で…助産師や保健ボランティアが、健診に行ったり妊婦をクリニックへ搬送するための「自転車」を、1台提供することができます

2万円で…妊婦の産前、産後のケアをする医療ボランティア1人の技術研修を支援することができます



東京都の約3倍の面積があるのに車もバイクもないマサイティ郡では、助産師や医療ボランティアが遠くの妊婦の健診に行ったり、荷台に乗せて妊婦を搬送したりと、自転車がとても役に立っています

#### 安全で衛生的な出産を支援

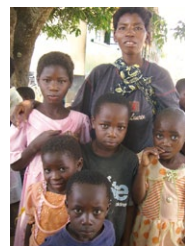
人口約12万人のマサイティ郡では、毎年約6000人の女性が出産しています。しかし、医師1人、助産師12人という状況なうえ、近くに病院がないため自宅出産をする女性が多いそう。そのため、安全でない出産介助が行われ、多くの命が犠牲になっています。そこで、消毒液やゴム手袋を提供し、安全で衛生的な出産ができる環境づくりを支援しています。また、保健ボランティアを派遣して、出産への準備を指導したり、妊婦をクリニックへ連れて行ったりしているそう。



「クラブハウス」と呼ばれる公民館。ここでは妊婦健診を行っていて、今まで健診ができなかった妊婦も健診ができるようになりました。そのほか、乳幼児健診や予防接種なども

#### 医療ボランティアの技術研修を支援

医療従事者が少ないため、地域の女性たちを医療ボランティアに育てるための技術研修を支援しています。自転車を使っただけの巡回や定期健診、クリニックへの搬送など、妊婦が安全に出産できるよう、医療ボランティアの人たちがさまざまな場面で活躍。医療ボランティアのシステムも根付いてきて、以前より医療従事者が増え、安全に出産できる環境になってきたそう。



マサイティ郡の家族は大家族で、15～16歳で結婚して平均で5～6人の子を出産。また、親せき一同が集まって、ひとつの集落のように住んでいて、みんなで助け合って生活しています